

## 「学生生活及び学修環境向上のためのアンケート」集計・分析結果

### 愛知みずほ大学インスティテューショナル・リサーチセンター

(主筆：桜井 栄一)

学生生活の実態を把握し、本学が課題として取り組んでいる課外学修時間や学修環境の向上に資する為、学生生活及び学修環境向上のためのアンケート調査を1年次学生全員に対し10月に実施した。調査項目は東京大学 大学経営・政策研究センターや(株)ベネッセが実施しているデータと比較対照ができるよう考慮してIRセンターで作成した。調査はマークシート方式の調査用紙を利用し、初年次教育カリキュラムの一つ「日本語コミュニケーション演習」の担当教員の協力を得て授業時間内に実施した。対象学生数152名に対し回収数は103名で、回収率は67.7%であった。

#### ★日常生活について

質問1. 大学に入学してから夏休みが終わるまで、あなたはどんなことに力を入れてきましたか。次の項目について、当てはまるものを1つ選んで下さい。

表1 入学から夏休みまでに力を入れたこと

|                | とても力を入れた | まあ力を入れた | あまり力を入れなかった | 全く力を入れていない | 大学に入ってからやっていない |
|----------------|----------|---------|-------------|------------|----------------|
| 大学の授業          | 18       | 58      | 25          | 2          | 0              |
| サークルや部活動       | 12       | 10      | 13          | 8          | 60             |
| 大学の授業以外の自主的な勉強 | 5        | 25      | 36          | 22         | 14             |
| 学校行事やイベント      | 4        | 18      | 25          | 24         | 31             |
| アルバイト          | 43       | 30      | 6           | 4          | 17             |
| 社会活動(ボランティアなど) | 12       | 9       | 17          | 18         | 47             |
| 趣味             | 34       | 38      | 22          | 4          | 2              |
| 読書(マンガ・雑誌を除く)  | 6        | 15      | 22          | 32         | 26             |

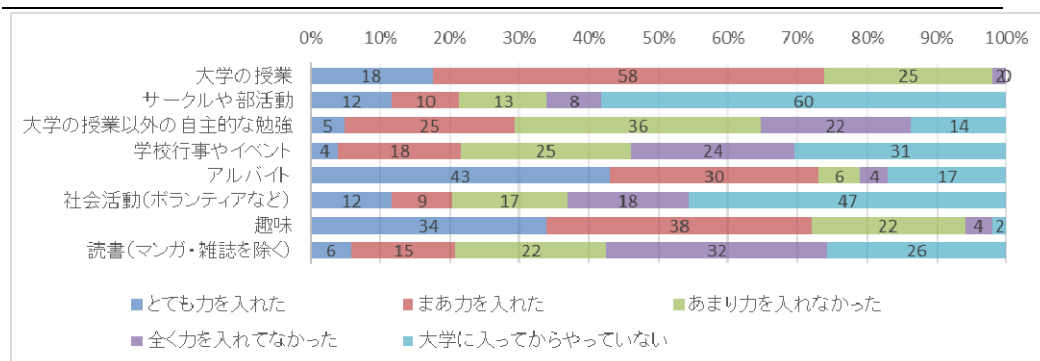


図1 入学から夏休みまでに力を入れたこと

【考察】学生が力を入れて取り組んでいる内容は、アルバイト、趣味、授業の順である。課外活動や社会活動に対する関心が低い、1年前期であることが原因である可能性もある。学年が上がった際の経過を確認したい。

質問2. 前期（夏休み前までの学期）では、大学にはどの程度きていましたか。また授業にはどれくらい出席していましたか。

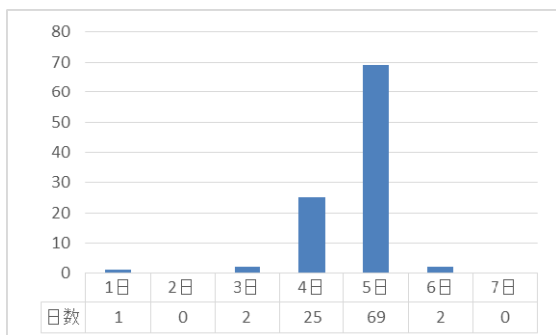


図2 大学に来ていた日（週当たり）

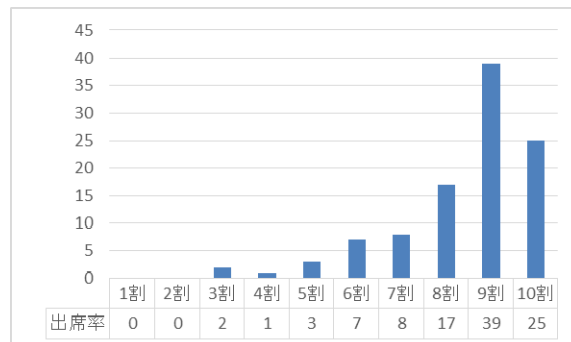


図3 授業への出席率

【考察】新カリキュラムは必修科目が多く、パソコン演習や野外レクリエーション演習など複数クラス開講クラスのクラス割りの都合もあって、時間割上週5日大学に通う学生が多くなっていると考えられる。授業への出席率も、1年前期ということもあり、高い学生が多い。

質問3. 大学に来た日は、授業や自主的な学習、サークル活動、友人とのおしゃべりなどすべて含めて、平均何時間くらい大学に滞在していますか。

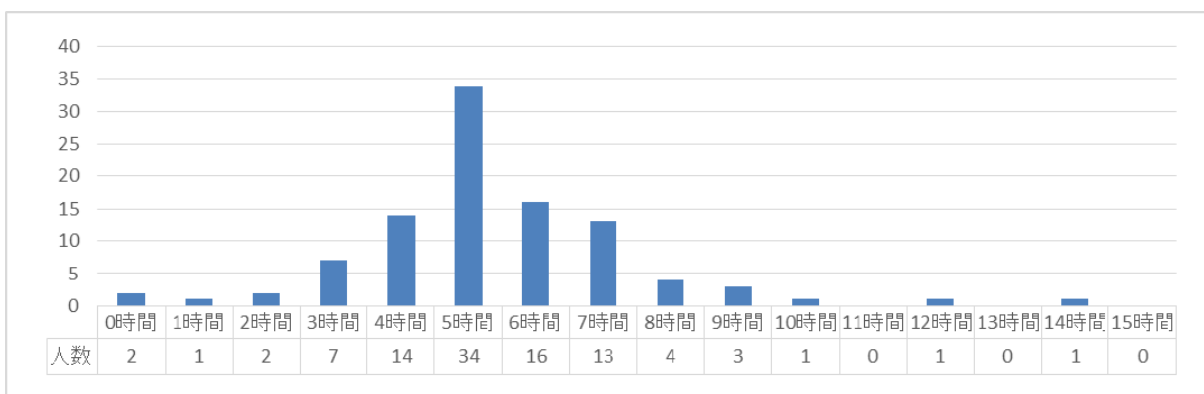


図4 大学での平均滞在時間（1日平均）

質問4. 以下のような場所で過ごすことがどのくらいありますか。

表2 大学内で過ごす場所

|    |            | よくある   | ときどきある | あまりない | ほとんどない |    |
|----|------------|--------|--------|-------|--------|----|
| 学内 | 図書室（1号館4階） | 5      | 19     | 18    | 59     |    |
|    | 空き教室       | 5      | 16     | 30    | 49     |    |
|    | 1F サロン     | 37     | 23     | 17    | 23     |    |
|    | 2F ラウンジ    | 18     | 23     | 17    | 43     |    |
|    | 4F ラウンジ    | 19     | 25     | 24    | 32     |    |
|    | 5F ラウンジ    | 16     | 34     | 16    | 33     |    |
|    | 4F ウッドデッキ  | 2      | 19     | 27    | 54     |    |
|    | 5F 情報処理室   | 4      | 19     | 25    | 55     |    |
|    | 5F 体育室     | 7      | 23     | 16    | 56     |    |
|    | 瀬木学園図書館    | 5      | 4      | 14    | 76     |    |
|    | 4号館自習室     | 1      | 3      | 4     | 92     |    |
|    | 学外         | アルバイト先 | 31     | 20    | 17     | 32 |
|    |            | 友人宅    | 13     | 24    | 22     | 39 |

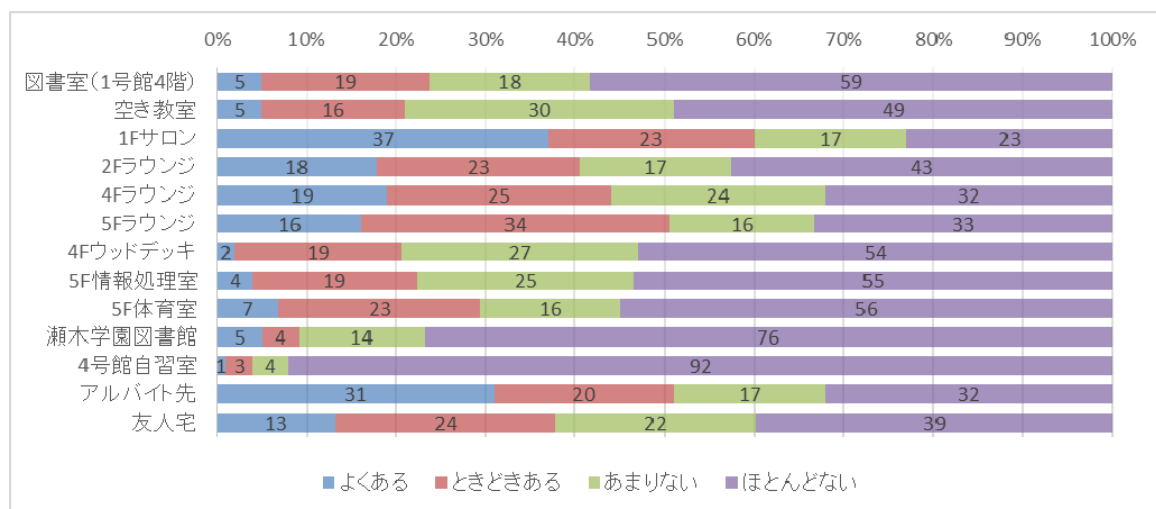


図5 大学内で過ごす場所

【考察】2013年度に完成した1号館は、学生の居場所を作ることに配慮して設計されている。1Fサロンや2F～5Fのラウンジはその為に設けられたものである。これらのサロン・ラウンジの利用率は他の場所に比べ高く、学生の居場所づくり、という目的は一応果たされていると考えられる。1Fサロンが多いのは収容人数が多いためと考えられる。

質問5. 前期の最も普通に過ごした一週間について、生活時間を教えて下さい。時間数は月曜日から日曜日まで、そのことに使った合計の時間を記入して下さい。

表3 一週間の生活時間（授業期間）

| 項目             | 1週間で使った時間 |      |       |       |       |       |       |       |       |       |        |
|----------------|-----------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
|                | 0時間       | ～5時間 | ～10時間 | ～15時間 | ～20時間 | ～25時間 | ～30時間 | ～35時間 | ～40時間 | ～45時間 | 45時間以上 |
| 授業への出席         | 2         | 2    | 16    | 66    | 14    | 2     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| 授業の課題・準備・復習    | 9         | 79   | 8     | 2     | 3     | 2     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| 授業と関係のない学習     | 43        | 47   | 11    | 1     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| サークル・クラブ活動     | 66        | 26   | 3     | 1     | 4     | 1     | 1     | 0     | 1     | 0     | 0      |
| アルバイト・仕事       | 25        | 3    | 12    | 11    | 27    | 11    | 4     | 6     | 1     | 1     | 2      |
| 通学             | 8         | 45   | 28    | 13    | 4     | 1     | 2     | 1     | 0     | 0     | 1      |
| 友達づきあい         | 7         | 21   | 33    | 18    | 11    | 4     | 2     | 1     | 1     | 0     | 5      |
| 社会活動（ボランティア等）  | 76        | 17   | 5     | 0     | 1     | 0     | 3     | 0     | 0     | 0     | 1      |
| 読書（マンガ・雑誌を除く）  | 53        | 43   | 3     | 0     | 0     | 1     | 3     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| テレビやDVDなどの視聴   | 6         | 23   | 30    | 17    | 11    | 2     | 5     | 2     | 3     | 1     | 3      |
| インターネットやLINEなど | 2         | 16   | 24    | 9     | 11    | 7     | 11    | 3     | 4     | 1     | 15     |

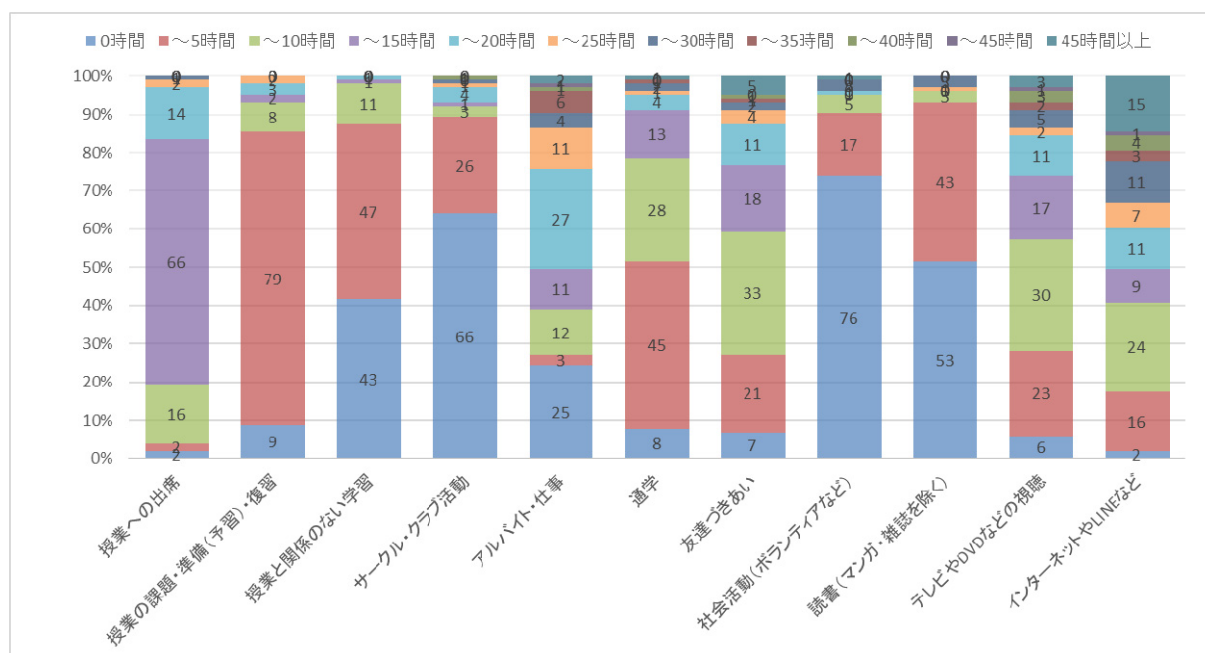


図 6 一週間の生活時間（授業期間）

【考察】本学では単位の実質化に向け、課外学修時間の伸長に取り組んでいる。その起点としての上記の調査だが、予習・復習の時間は5時間以下の学生が大半で、平均値は3.67時間であった。多くの学生が週10科目程度を履修していることから、今後、各講義での予習・復習の徹底などの施策が必要と考えられる。

また、テレビやDVDなどの視聴やインターネット・LINEなどに非常に多くの時間を費やしている学生が多いことが分かる。

質問6. 夏休み期間の最も普通に過ごした一週間について、生活時間を教えて下さい。時間数は月曜日から日曜日まで、そのことに使った合計の時間を記入して下さい。

表 4 一週間の生活時間（夏季休暇中）

| 項目             | 1週間で使った時間 |      |       |       |       |       |       |       |       |       |        |
|----------------|-----------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
|                | 0時間       | ～5時間 | ～10時間 | ～15時間 | ～20時間 | ～25時間 | ～30時間 | ～35時間 | ～40時間 | ～45時間 | 45時間以上 |
| 学習             | 38        | 2    | 16    | 66    | 14    | 2     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| サークル・クラブ活動     | 88        | 79   | 8     | 2     | 3     | 2     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| アルバイト・仕事       | 25        | 47   | 11    | 1     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| 通学             | 80        | 26   | 3     | 1     | 4     | 1     | 1     | 0     | 1     | 0     | 0      |
| 友達づきあい         | 7         | 3    | 12    | 11    | 27    | 11    | 4     | 6     | 1     | 1     | 2      |
| 社会活動(ボランティアなど) | 84        | 45   | 28    | 13    | 4     | 1     | 2     | 1     | 0     | 0     | 1      |
| 読書(マンガ・雑誌を除く)  | 66        | 21   | 33    | 18    | 11    | 4     | 2     | 1     | 1     | 0     | 5      |
| テレビやDVDなどの視聴   | 2         | 17   | 5     | 0     | 1     | 0     | 3     | 0     | 0     | 0     | 1      |
| インターネットやLINEなど | 3         | 43   | 3     | 0     | 0     | 1     | 3     | 0     | 0     | 0     | 0      |

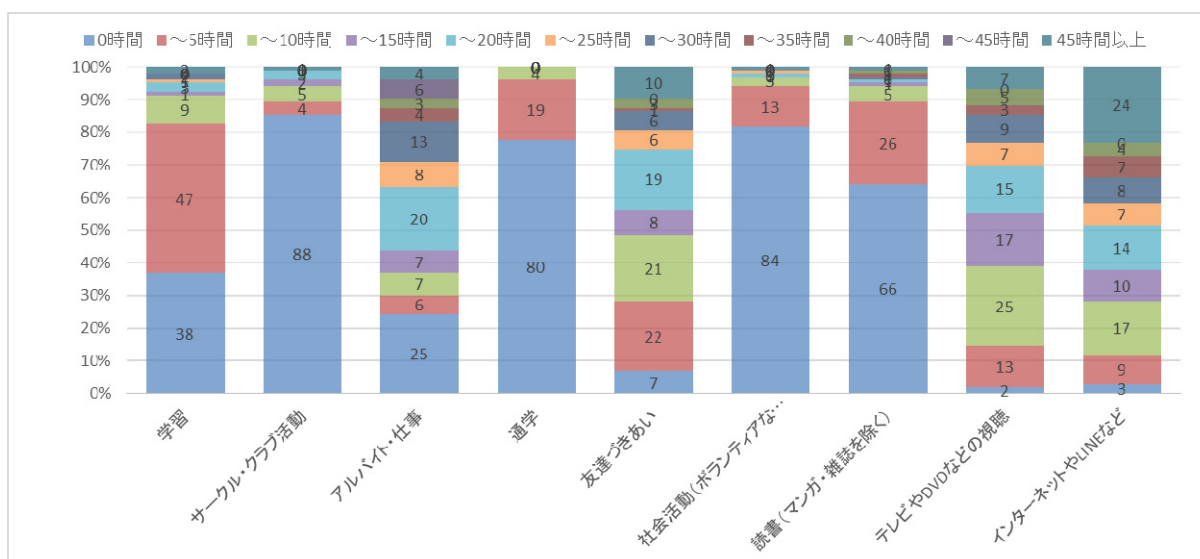


図7 一週間の生活時間 (夏季休暇中)

【考察】一般的には休み中はアルバイト・仕事の時間を増やすものと考えられがちであるが、今回の調査では授業期間中と大きな差は認められなかった。顕著に時間が増えているのはテレビやDVDなどの視聴であり、この点が特徴的である。

質問7. あなたは本（マンガを除く）を一ヶ月に何冊くらい読みますか。

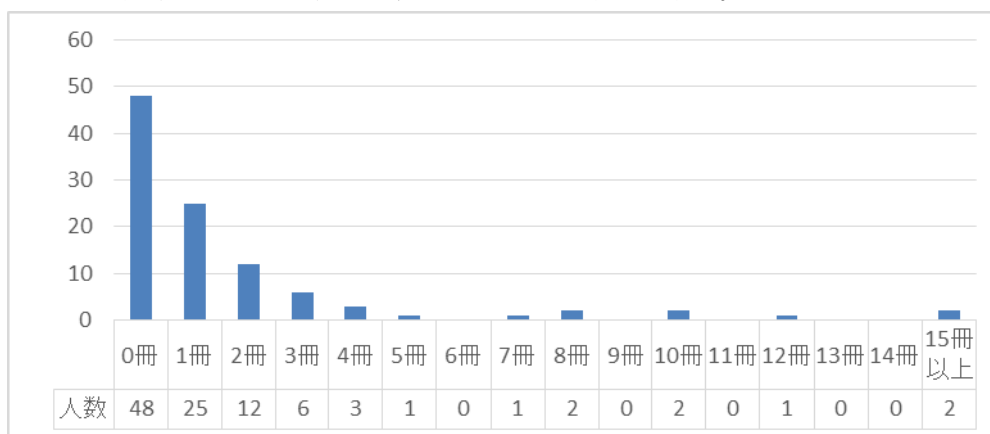


図8 一カ月の読書数

【考察】1冊も読まない学生が半分近くを占めており、全国大学生生活協同組合連合会の調査（2014年2月26日公表 40.5%）と同様の傾向を示している。GPA、読書時間共に正規分布していないので正確ではないが、5で調査した読書時間とGPAの間には弱い正の相関が認められる。

質問8. あなたは、どのような友達とよく話をしていますか。

表5 良く話す友達

|               | よくある | ときどきある | あまりない | ほとんどない |
|---------------|------|--------|-------|--------|
| クラス・同じ授業のともだち | 92   | 6      | 2     | 3      |
| サークルなどのともだち   | 21   | 15     | 6     | 61     |
| 上記以外のともだち     | 55   | 29     | 7     | 11     |

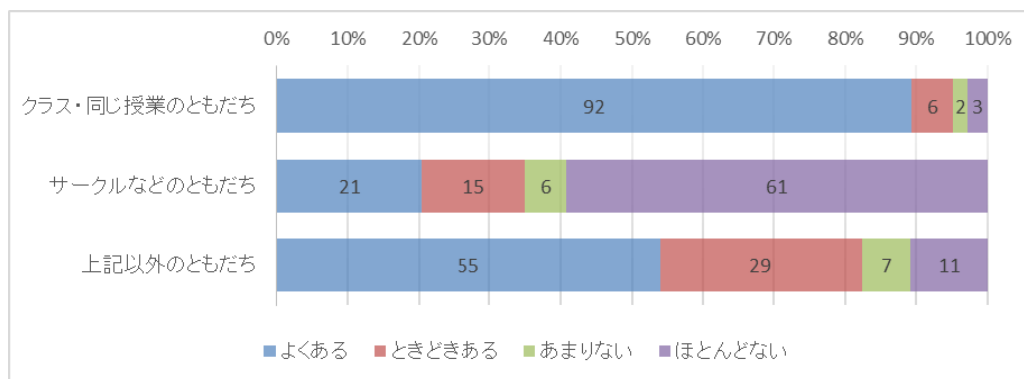


図9 良く話す友達

【考察】大学で過ごす時間の多くは授業時間である為、クラス、同じ授業の友達と良く話すことになると考えられる。実際の学生の話を聞いても、同じ授業を受けていることから友だちになるケースが多くある様子である。サークルの友だちとの会話が少ないのは1や5の調査から分かるようにサークル・部活動に参加している学生が少ないためと考えられる。

質問9. 以下のようなことについてだれに相談しますか。(あてはまるものすべてを回答)

表6 相談相手

|         | 教員 | 職員 | 友人・先輩 | 親  | 特に誰にも相談しない |
|---------|----|----|-------|----|------------|
| 勉強のこと   | 12 | 1  | 37    | 10 | 23         |
| 将来のこと   | 12 | 1  | 21    | 27 | 17         |
| 日常生活のこと | 1  | 0  | 56    | 24 | 19         |

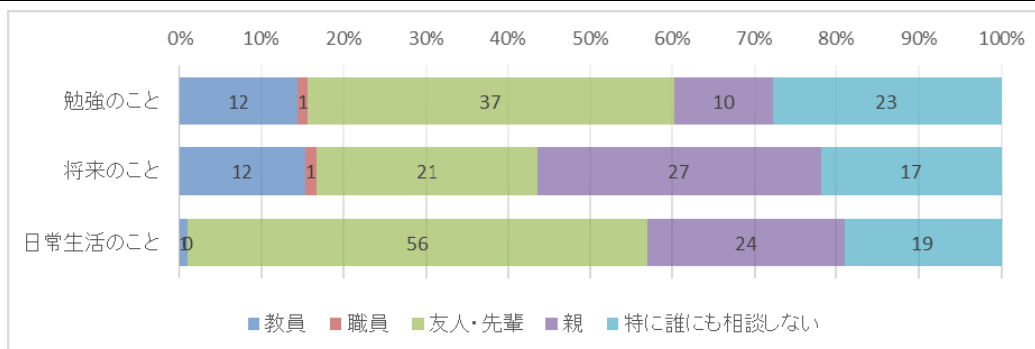


図10 相談相手

【考察】友人や両親への相談が主であるが、勉強のことや将来のことに関しては教員・職員に相談する学生が一定数存在する。一方でこれらに関して「特に誰にも相談しない」学生が2割程度おり、これらの学生が教員・職員に相談しやすい体制を作ることが課題である。

質問10. あなたの住居は以下のどれに当てはまりますか

表7 住居

| 住居           | 人数 |
|--------------|----|
| 自宅           | 69 |
| 賃貸アパート・マンション | 30 |
| その他          | 3  |

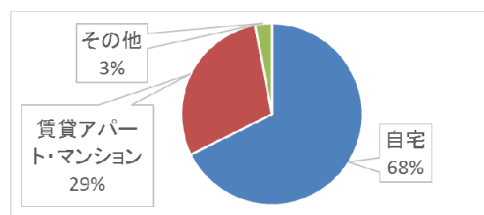


図11 住居

【考察】名古屋キャンパスに移り、交通機関が便利になったこともあり、豊田キャンパスと比べ自宅から通学する学生の比率が増えている。豊田キャンパスでは自宅から通う学生とアパートなどから通う学生の比率はほぼ同率となっていた。

質問11. 1か月の生活費（授業料を除く）をどのようにまかなっていますか。**1万円単位（端数は四捨五入）で金額を教えてください。**

表 8 生活費のまかない方

|          | 0円 | ～5万円 | ～10万円 | ～15万円 | ～20万円 | ～25万円 | ～30万円 | ～35万円 | ～40万円 | ～45万円 | 50万円以上 |
|----------|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 両親等から    | 51 | 39   | 9     | 2     | 1     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| 奨学金      | 79 | 15   | 7     | 0     | 1     | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| アルバイト・給与 | 29 | 30   | 34    | 5     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 0     | 4      |
| その他      | 87 | 10   | 3     | 0     | 0     | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     | 2      |

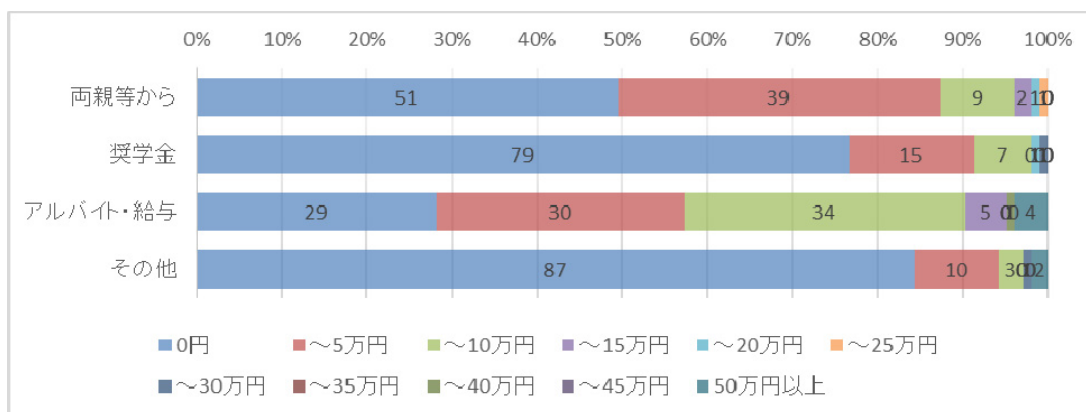


図 12 生活費のまかない方

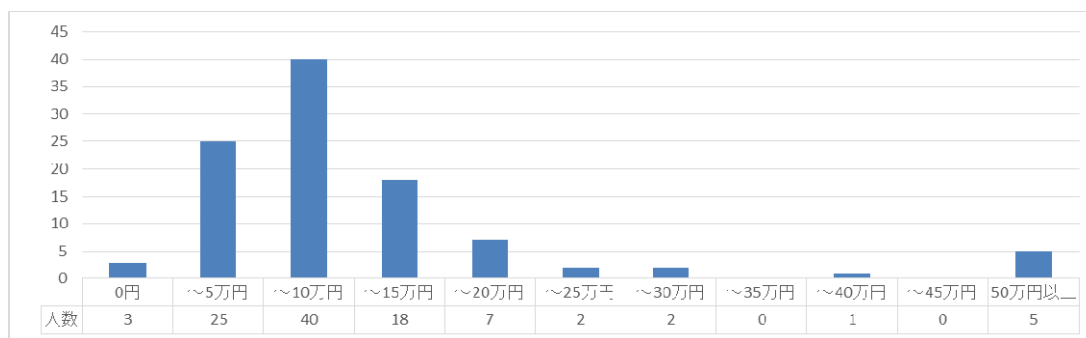


図 13 一カ月の生活費の総額

【考察】学生多くは生活費の総額が10万円程度までであり、自宅から通う学生の比率が多いことによると考えられる。両親からの拠出に比べ、アルバイトによる収入が多いことが特徴的である。

質問12. 授業料をどのようにまかなっていますか。割合を全体で10割になるようにお答えください。

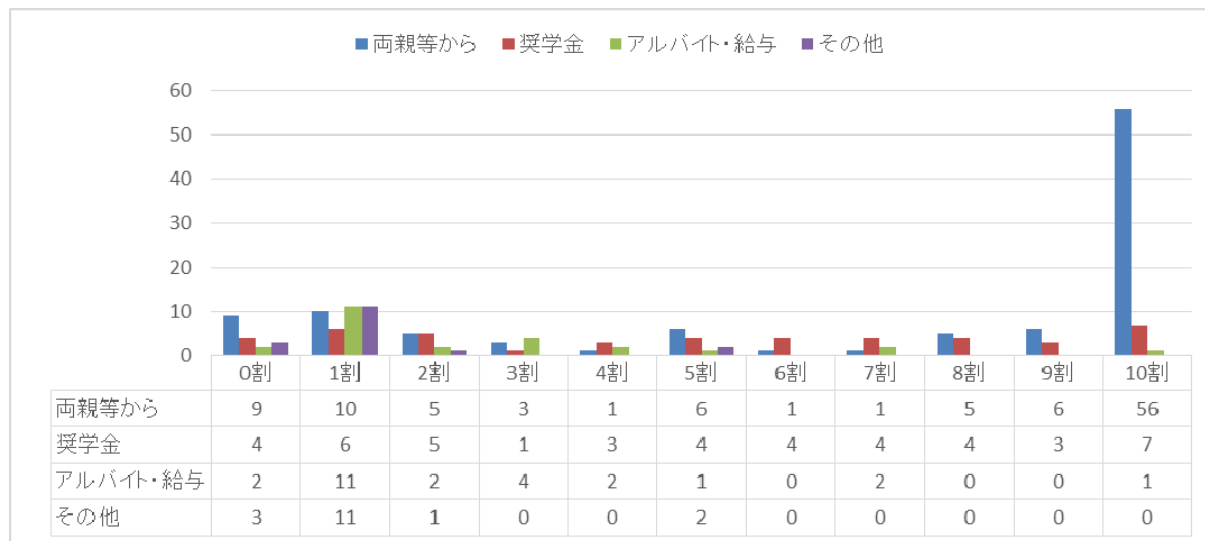


図14 授業料のまかない方

【考察】授業料に関しては両親の全額負担と、両親+奨学金により拠出する学生が多数を占める。アルバイトにより何らかの形で学費を賄う学生は2割程度で、先の調査項目と併せると、アルバイトをしている学生(8割程度)の多くは生活費(両親との同居が多いことを考えると多くは小遣い)が目的であることが分かる。

★授業とカリキュラムについて

質問13. これまで受けた授業では、下のようなことがどれくらいありますか。またそれは必要ですか。

表9 学修効果向上に関する取り組み(経験と必要性)

|                            | 経験したか    |         |         |       | 必要か    |        |       |
|----------------------------|----------|---------|---------|-------|--------|--------|-------|
|                            | ほとんどなかった | あまりなかった | ある程度あった | よくあった | 必要ではない | ある程度必要 | 非常に必要 |
| 授業内容に興味をわくよう工夫されている        | 13       | 31      | 52      | 6     | 5      | 62     | 36    |
| 理解がしやすいように工夫されている          | 9        | 37      | 52      | 5     | 4      | 43     | 55    |
| TAなどによる補助的な指導がある           | 51       | 30      | 16      | 4     | 24     | 58     | 20    |
| 出席が重視される                   | 1        | 19      | 39      | 44    | 10     | 42     | 49    |
| 最終試験の他に小テストやレポートなどの課題が出される | 0        | 16      | 62      | 25    | 13     | 65     | 24    |
| 適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される | 21       | 44      | 29      | 8     | 13     | 55     | 34    |
| 授業中に自分の意見や考えを述べる           | 18       | 52      | 28      | 4     | 24     | 64     | 12    |
| グループワークなど、学生が参加する機会がある     | 11       | 20      | 44      | 28    | 21     | 56     | 17    |



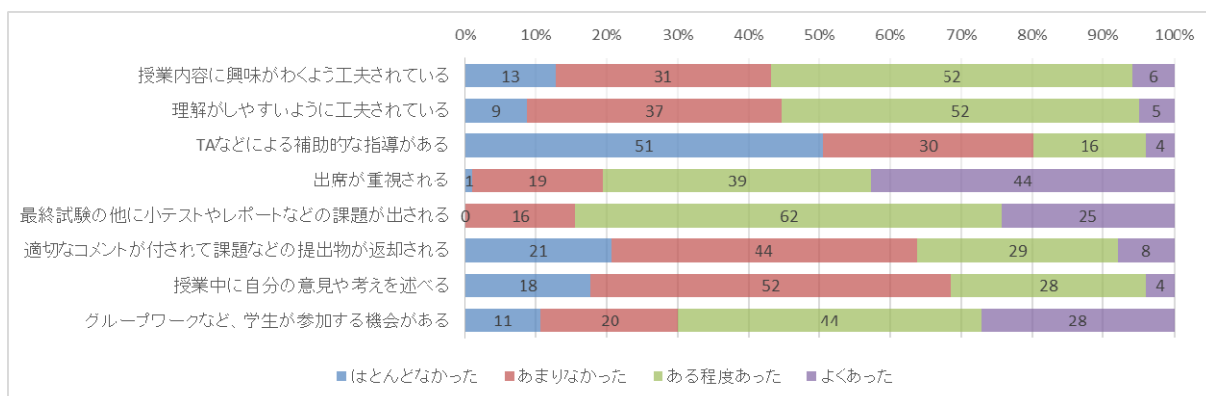


図 15 学修効果向上に関する取り組み（経験）

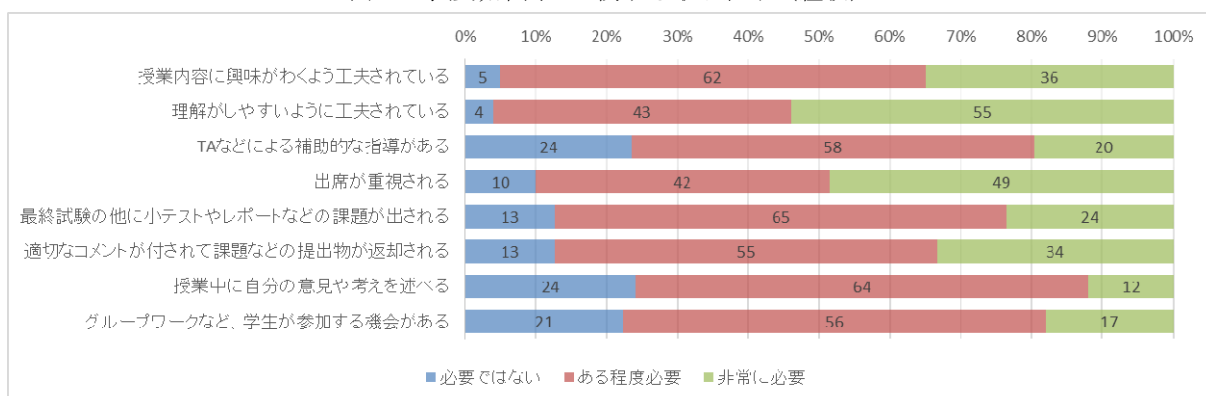


図 16 学修効果向上に関する取り組み（必要性）

【考察】学生の授業経験に関する調査では、「グループワークなど学生が参加する機会がある」授業をある程度以上経験している学生が多数を占めた。これは、新カリキュラムでアクティブラーニングを取り入れた授業科目を増やしたことによると考えられる。必要性に関する調査でも、このような授業が必要であると答える学生が多数を占めていることから、アクティブラーニングの利点がある程度は学生に浸透していることが分かる。

また、本学では「時間数不足」の制度があり、講義に関し3分の2以上の出席がないと定期試験の受験資格を失う。さらに、アクティブラーニングを取り入れた講義が多いこともあり、ほぼ全ての学生が出席を重視する授業を経験している。必要性の調査でも出席が重視される授業を必要と答える学生が多く、この点に関しても学生の理解を得られていると考えられる。

「最終試験の他に小テストやレポートなどの課題が出される」授業についても、経験、必要性ともに高い比率となっている。一方で、「適切なコメントを付されて課題などの提出物が返却される」授業を経験した学生の比率は低く、必要性を感じる学生の比率は高い。適切なコメントを付した提出物の返却は、授業改善の重要な要素である、との事例も多数報告されており、今後の課題の一つとなると考えられる。

質問14. あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか。

表 10 授業への取り組み方

|                             | あてはまらない | あまりあてはまらない | ある程度あてはまる | あてはまる |
|-----------------------------|---------|------------|-----------|-------|
| 興味がわからない授業でもきちんと出席する        | 4       | 3          | 30        | 66    |
| なるべく良い成績をとるようにしている          | 4       | 8          | 37        | 53    |
| グループワークやディスカッションに積極的に参加している | 7       | 24         | 49        | 23    |
| 先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている    | 30      | 45         | 16        | 12    |
| 必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる      | 20      | 43         | 31        | 9     |

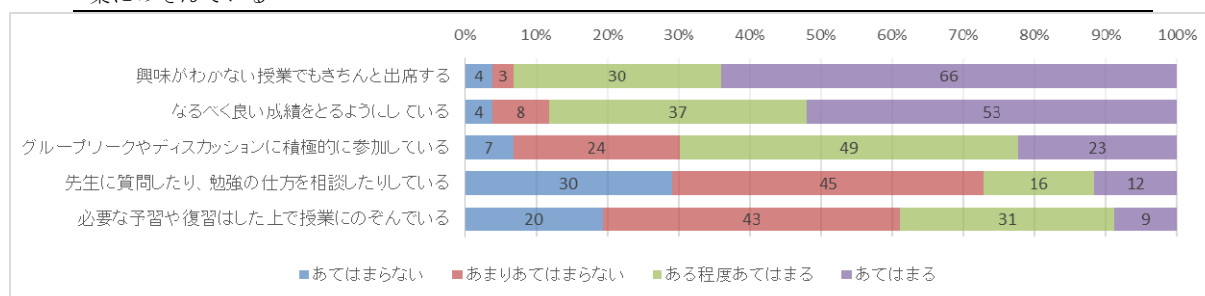


図 17 授業への取り組み方

【考察】興味のわかない授業でもきちんと出席し、なるべく良い成績をとるように心がける学生が多数を占める一方、先生に質問・相談したり、予習・復習を行ったりする学生の比率は低い。これらのことから、比較的受け身な学習姿勢の学生像が想像される。グループワークやディスカッションへの参加に関しては中間的な結果になっているが、これは、初年次教育で PBL などのアクティブラーニング手法が多く取り入れられていることが原因の一つとして考えられる。

質問15. 大学での学び方について、あなたの考えに近いものを選んでください。

表 11 大学での学び方

| A                       | ←Aに近い Bに近い→ |    |    |    | B                    |
|-------------------------|-------------|----|----|----|----------------------|
| 授業はとり方があらかじめ決まっているほうがよい | 20          | 30 | 22 | 31 | 授業は自分で好きなようにとりたいたい   |
| <b>重心* 0.14</b>         |             |    |    |    |                      |
| 授業の意義や必要性を教えて欲しい        | 30          | 43 | 17 | 13 | 授業の意義や必要性は自分で見出したい   |
| <b>重心* -0.6</b>         |             |    |    |    |                      |
| 授業の中で必要なことは全て扱って欲しい     | 44          | 42 | 8  | 8  | 授業はきっかけで、後は自分で学びたい   |
| <b>重心* -1</b>           |             |    |    |    |                      |
| 自分のレベルにあった授業をして欲しい      | 32          | 42 | 19 | 10 | 授業は難しくてもチャレンジングな方がいい |
| <b>重心* -0.7</b>         |             |    |    |    |                      |
| 専門以外のことも広く学びたい          | 11          | 30 | 31 | 30 | 専門分野を深く学びたい          |
| <b>重心* 0.38</b>         |             |    |    |    |                      |

※重心：(A に最も近い回答数×-2+A に近い回答数×-1+B に近い回答数×1+B に最も近い回答数×2) ÷ 全回答数  
 マイナスの値が大きければ A に近い考えの者が多く、プラスの値が大きければ B に近い考えが多いことを示す指標としている。(解答は間隔尺度ではない為、数学的な厳密性には欠ける)

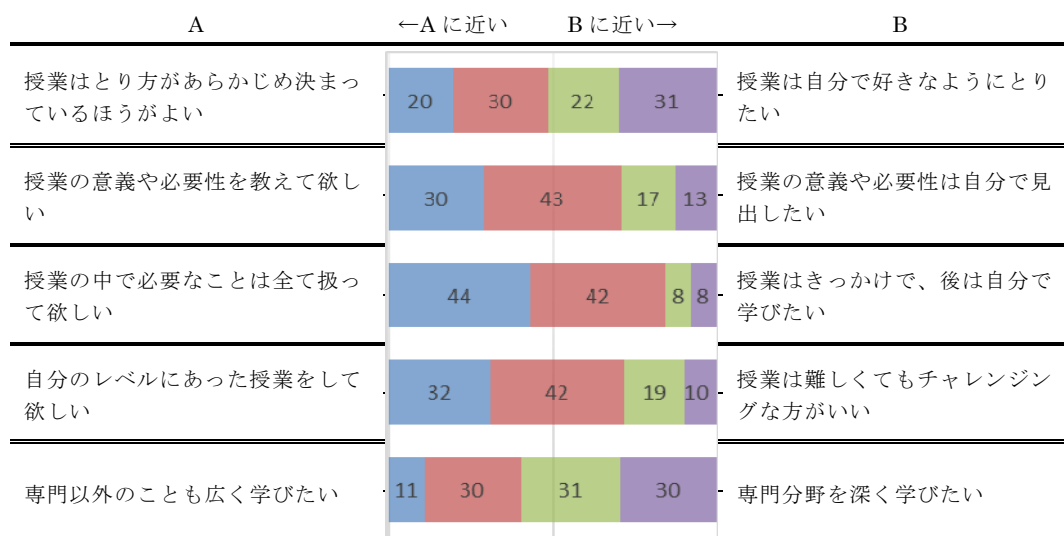


図 18 大学での学び方

【考察】顕著な傾向としては、「授業の意義や必要性を教えて欲しい」「授業の中で必要なことは全て扱って欲しい」「自分のレベルにあった授業をして欲しい」考えに近い学生が多いことである。これは、質問 14 の結果と同様に、学修に関して受け身の姿勢の学生が多いことを表していると考えられる。

### ★卒業後の進路

質問16. 卒業後の進路についてどのような希望をもっていましたか。また今もっていますか。

表 12 卒業後の進路希望

|                  | 大学に入学したとき<br>(いくつでも○) | 現在の希望<br>(いくつでも○) |
|------------------|-----------------------|-------------------|
| 民間企業に就職する        | 6                     | 9                 |
| 公務員になる           | 14                    | 6                 |
| 教師などの専門職につく      | 42                    | 34                |
| 自営など上記以外の形で就職する  | 1                     | 1                 |
| 大学院などに進学する(海外含む) | 7                     | 2                 |
| その他              | 5                     | 3                 |
| 決めていない           | 17                    | 13                |

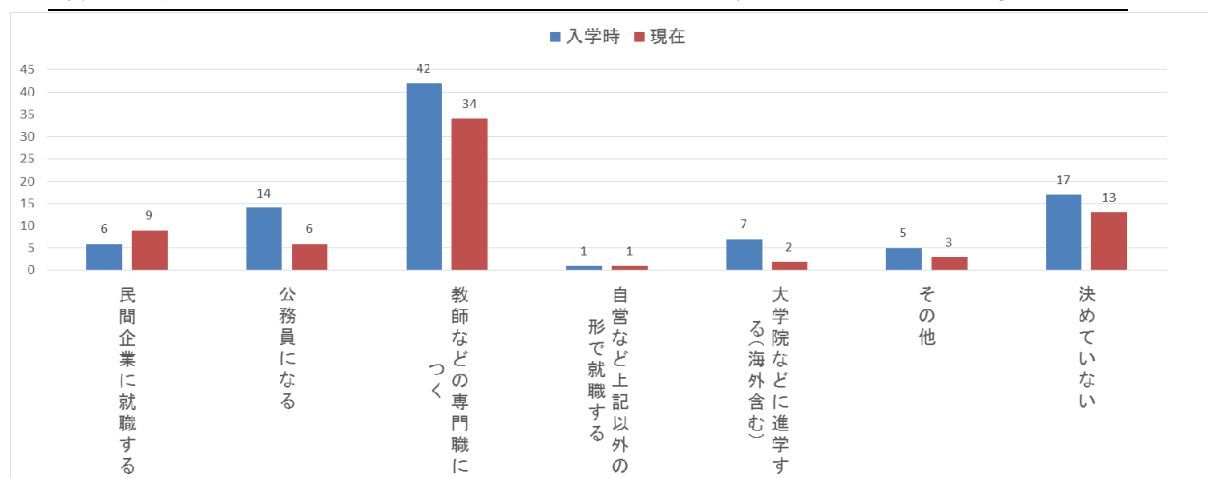


図 19 卒業後の進路希望

【考察】「教師などの専門職につく」希望を持っている学生が多いのは、教員を主要な目指す進路とする「養護・保健コース」「保健体育コース」の入学者が多いことからと考えられる。入学後に「教師などの専門職につく」希望を持つ学生が減っているが、これは、各種ガイダンスや教員・先輩の話などを聞いて教員になることの大変さを意識するためと推測される。

質問17. 就職する上で、次の点はどの程度重要と思いますか。

表 13 就職に重要なこと

|                    | 重要ではない | ある程度重要 | きわめて重要 |
|--------------------|--------|--------|--------|
| どの大学（大学院）を出たかということ | 31     | 59     | 13     |
| どの分野を専攻したかということ    | 16     | 53     | 34     |
| 個人としての能力           | 2      | 21     | 80     |

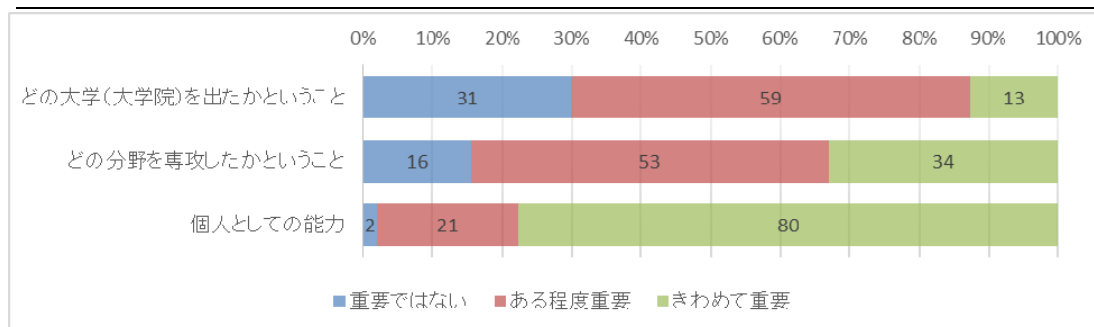


図 20 就職に重要なこと

【考察】出身大学・専攻よりも個人としての能力を重視する傾向が顕著である。本学が著名大学ではないことを意識した回答と考えられる。(上述のような考えを持つ故に本学を自覚的に選択する場合、不本意入学だが、“前向きな”捉え方をしている場合の両方が考えられる。) この意識を本学での自発的な学修に繋げていくことが課題である。

質問18. 仕事にどのようなことを望みますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

表 14 仕事に望むこと

| A                 | ←Aに近い |    | Bに近い→ |    | B                  |
|-------------------|-------|----|-------|----|--------------------|
| チームで仕事をして成果を分かち合う | 31    | 38 | 26    | 8  | 個人の努力が成果に結びつく      |
| <b>重心* -0.6</b>   |       |    |       |    |                    |
| あらかじめ決められたことを形にする | 14    | 37 | 30    | 22 | 新しい商品やサービスを生み出す    |
| <b>重心* 0.09</b>   |       |    |       |    |                    |
| 年齢や経験を重視した給与      | 16    | 30 | 30    | 27 | 個人の業績や能力が大きく影響する給与 |
| <b>重心* 0.21</b>   |       |    |       |    |                    |
| 残業が多くてもキャリアアップできる | 9     | 19 | 41    | 33 | 残業が少なく自分の時間が持てる    |
| <b>重心* 0.69</b>   |       |    |       |    |                    |
| 一つの仕事で専門家になること    | 18    | 29 | 35    | 20 | いろいろな仕事を幅広く経験できること |
| <b>重心* 0.1</b>    |       |    |       |    |                    |

※重心：(A に最も近い回答数×-2+A に近い回答数×-1+B に近い回答数×1+B に最も近い回答数×2) ÷ 全回答数      マイナスの値が大きければ A に近い考えの者が多く、プラスの値が大きければ B に近い考えが多いことを示す指標としている。(解答は間隔尺度ではない為、数学的な厳密性には欠ける)

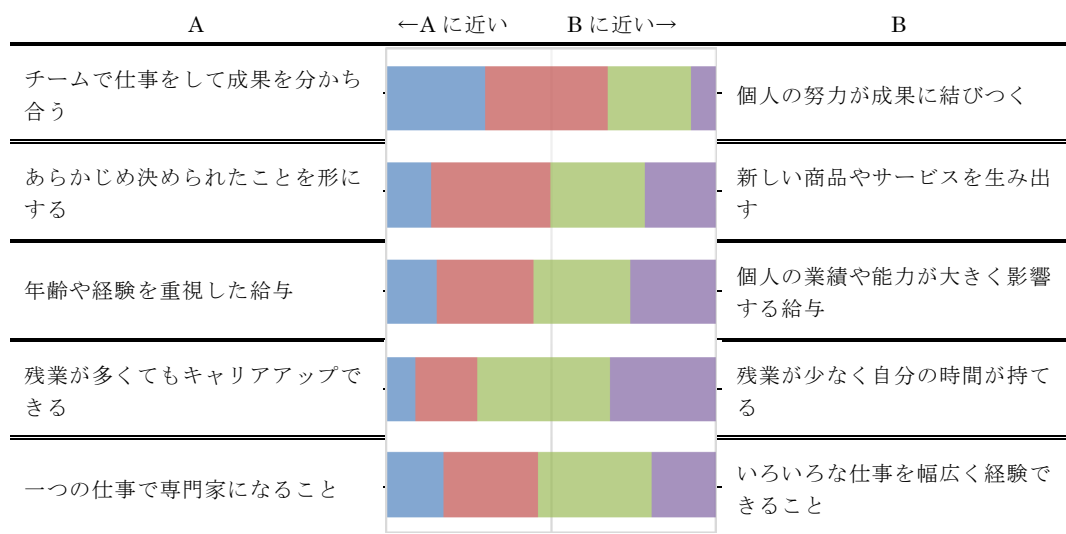


図 21 仕事に望むこと

【考察】「個人の努力が成果に結びつく」仕事よりも「チームで仕事をして成果を分かち合う」仕事を志向する学生が多い。また、「残業が多くてもキャリアアップできる」仕事よりも「残業が少なく自分の時間が持てる」仕事を志向する学生が多い。

これらからいわゆる「上昇志向」とは異なる、チームワークと自分の時間を重視する傾向が伺える。

質問19. 大学を卒業後のキャリアについてどう考えていますか。

表 15 キャリア観

|                          | そう思わない | ある程度思う | そう思う |
|--------------------------|--------|--------|------|
| すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる  | 13     | 49     | 41   |
| すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない | 48     | 45     | 10   |
| すぐに大学院などに進学する            | 76     | 22     | 5    |
| 就職してから大学院への進学を考える        | 84     | 15     | 3    |
| 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない | 45     | 30     | 10   |
| 卒業後すぐには就職しなくてもよい         | 82     | 16     | 5    |
| 最初の就職先にできるだけ長く勤める        | 11     | 35     | 57   |
| 何年かして転職や独立をする            | 61     | 34     | 8    |
| 結婚・出産したら仕事をやめる(女性のみ)     | 32     | 31     | 7    |

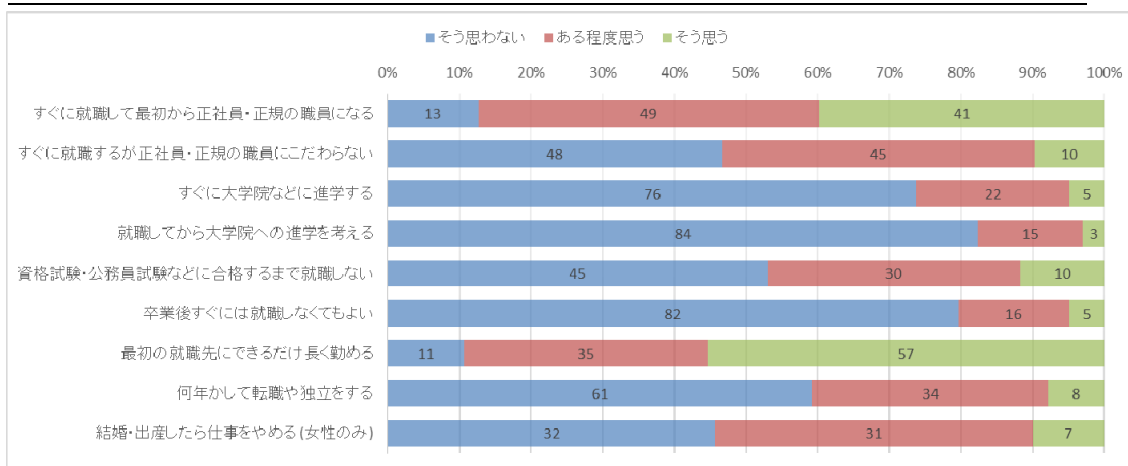


図 22 キャリア観

【考察】正職員になり、最初の就職先にできるだけ長く勤める、という安定志向の学生が多いことが分かる。一方で、教員志望者が多いため、「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」という学生が半数程度いることも特徴となっている。

★その他

質問20. 中学・高校での経験について、あてはまるものを選んでください。

表 16 中学・高校での経験

|                        |        |       |       |       |          |
|------------------------|--------|-------|-------|-------|----------|
| 中学3年生のころの成績            | 下の方    | 中の下   | 中くらい  | 中の上   | 上の方      |
|                        | 28     | 24    | 27    | 15    | 9        |
| 高校1年生のころの進路希望          | 就職する   | 専門学校  | 短大    | 大学    | 考えていなかった |
|                        | 7      | 13    | 3     | 60    | 20       |
| 高校3年生のころの 家や塾での1日の勉強時間 | していない  | 1時間程度 | 2時間程度 | 3時間程度 | 4時間以上    |
|                        | 29     | 21    | 19    | 15    | 19       |
| 大学入学資格検定               | 受けていない |       |       | 受けた   |          |
|                        | 78     |       |       | 24    |          |

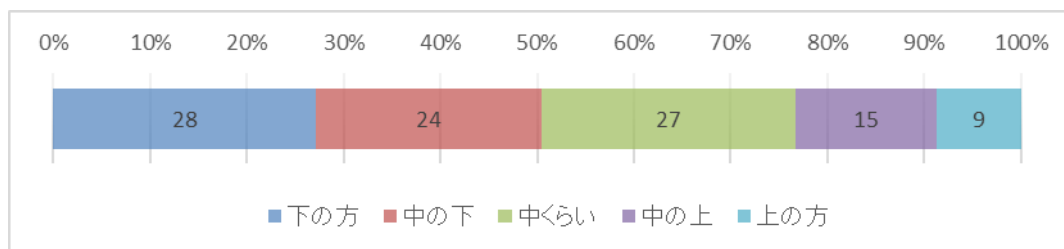


図 23 中学3年生の頃の成績

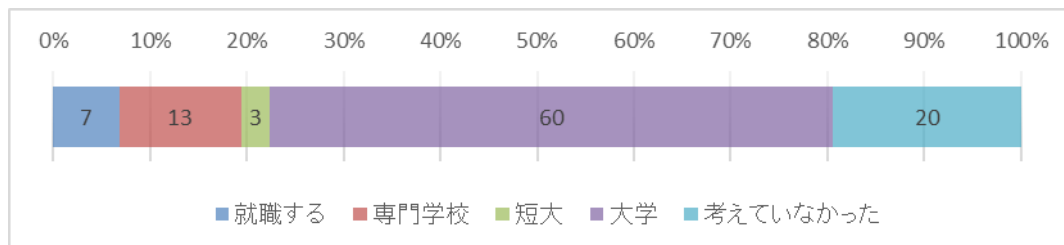


図 24 高校1年生のころの進路希望

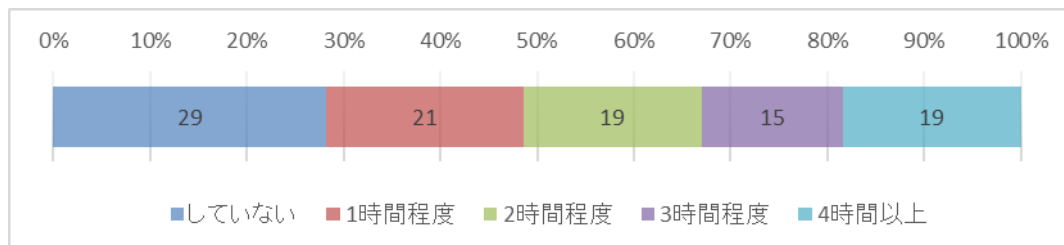


図 25 高校3年生のころの 家や塾での1日の勉強時間

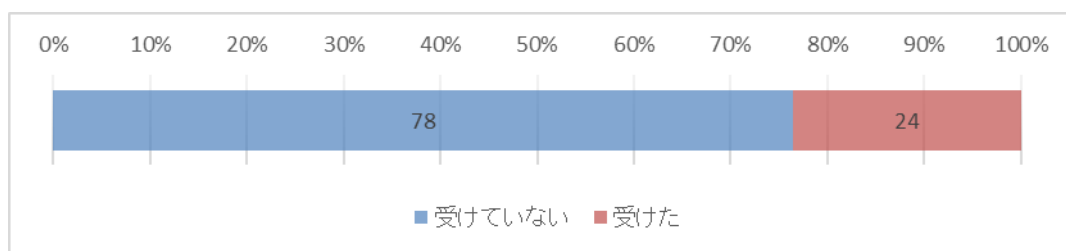


図 26 大学入学資格検定

【考察】高校3年生のころの 家や塾での1日の勉強時間が1時間以下の者が半数を占め、学習をする習慣のついていない学生が入学してきていることが分かる。課外学修時間向上の為には、このような学生に如何に学修の習慣を身に付けさせるかが課題となる。

質問21. あなたは、これまでに次のようなことを感じたり思ったりしたことがどのくらいありますか。

表 17 大学生活での悩み

|                      | ほとんどない | あまりない | ときどきある | よくある |
|----------------------|--------|-------|--------|------|
| 生活に熱意がわからない          | 18     | 38    | 33     | 14   |
| 友達のことでの悩みがある         | 29     | 35    | 29     | 10   |
| 先生のことでの悩みがある         | 51     | 27    | 14     | 11   |
| 授業の内容についていっていない      | 23     | 28    | 41     | 11   |
| 授業に興味・関心がわからない       | 16     | 34    | 36     | 16   |
| 進級や卒業ができるか心配だ        | 27     | 23    | 27     | 26   |
| 他の学科・学部・大学や学校に入り直したい | 31     | 17    | 32     | 23   |
| 大学を辞めたい              | 54     | 20    | 15     | 14   |
| 経済的に勉強を続けることが難しい     | 59     | 25    | 15     | 4    |
| まわりの学生がやる気がない        | 19     | 26    | 35     | 23   |
| やりたいことが見つからない        | 37     | 18    | 35     | 12   |

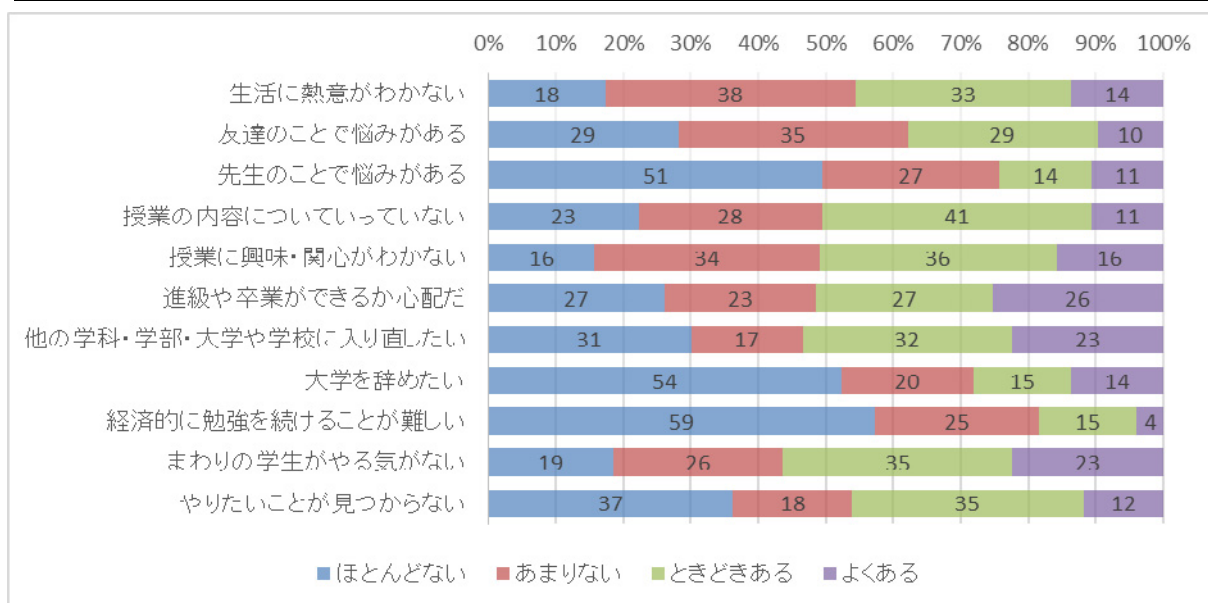


図 27 大学生活での悩み

【考察】「他の学科・学部・大学や学校に入り直したい」「まわりの学生がやる気がない」との回答が多く、第2希望以降で入学した不本意入学の学生が多いことが伺える。これらの学生に対しては、質問17にあるような「就職に必要なものは大学名ではなく、個人の能力」という意識に訴えかけるなどの方策で積極的な学修に導いていく必要がある。

一方で、「授業の内容についていけない」「進級や卒業ができるか心配だ」といった悩みも半数程度の学生が抱えており、ピアサポート等、何らかの学修サポートの仕組みも検討の必要がある。